

令和4年度 嘉数小学校の取り組み

1 研究主題

書く活動を重視した表現力の育成
～6年間を通したフォニックス指導を通して～

2 研究主題設定の理由

令和2年度に小学校学習指導要領が全面実施されたことにより、中学年では、週1時間の外国語活動として「聞くこと」と「話すこと [やり取り] [発表]」の2技能3領域を学習し、高学年では、週2時間の外国語科として「読むこと」と「書くこと」が加わり、4技能5領域を学習している。本校では、低学年から週1時間の外国語活動を実施しており「聞くこと」と「話すこと」を中心とした活動を通して英語学習の意欲を高め、高学年から始まる本格的な外国語学習に備える時期である中学年の学習へとつなげている。これまで小学校高学年の指導対象ではなかった「読むこと」「書くこと」の技能についても、中学校への接続を図ることを重視し、特に「書くこと」の指導を丁寧に行っている。

また、フォニックスの指導を通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、アルファベットの文字の名前と文字の発音の仕方が違うことを理解させている。低学年から継続してフォニックスの指導を行うことで、音の聞き分けや繰り返しが上手になり、高学年の外国語のリスニング問題においてその力を発揮しており、フォニックス学習効果が表れていると考える。学年に応じた丁寧なフォニックス指導を行うことで、これからもリスニング力、スピーキング力、文字に対する意識の向上のために継続した指導を行っていきたい。このような取り組みの中で、本校児童は音声の文字化、書くことに対して積極的に取り組んでおり、今後中学校での英語の学習でもその力を存分に発揮できると期待している。

3 主な研究内容

(1) 各学年におけるフォニックス指導と文字・ライティング指導内容

学年	指導内容
1 学年	【英語の歌やゲームを通して、英語の発音、文字に出会う】 ・英単語の発音 ・歌 ・ダンス
2 学年	【英語の歌やゲームを通して、英語の発音、文字に慣れる】 ・Jingle ・Alphabet song ・アルファベットを体で表現しよう ・塗り絵（大文字）
3 学年	【英語の歌やゲームを通して、英語の発音、文字に慣れ親しむ】 ・Jingle ・大文字の形を知る ・大文字を読む ・自分のイニシャルを書く
4 学年	【英語の歌やゲームを通して、より文字に興味を持たせる】 ・フォニックスゲーム ・小文字の形を知る ・小文字を読む ・大文字、小文字の順番を覚える ・形が似たような文字の認識
5 学年	【Sounds and letter を通して、似たような音を認識し、区別して発音する】 ・フォニックスゲーム ・教科書のドリル（Sounds and letters） ・紹介文の書き方や発表の仕方を知る
6 学年	【Sounds and letter を通して、より多くの似たような音を認識し、区別して発音する。】 ・フォニックスゲーム ・教科書のドリル（Sounds and letters） ・紹介文の書き方や発表の仕方に慣れ親しむ

発達段階に応じた、系統的な指導により、表現力の向上を図る。

(2) 指導方針

- ①フォニックス指導は宜野湾市が示している内容で進めていく。（※指導は5分程度で終える。）
- ②ライティング指導においては、小学校独自のものではなく、中学校でのライティング指導を見据えた4線を使用して指導している。
- ③振り返りシートに、単元のトピックを3学年からなぞり書きを、6学年から写し書きをすることで、書くことへの抵抗をなくすように指導している。

4 学習指導案

第2学年 外国語活動学習指導

(1/3 時間)

- (1) 本時のねらい 文房具の言い方を知り、どの文房具がほしいかを伝える表現を知る。【知識・技能】
 (2) 言語材料 pen, pencil, pencil case, eraser, scissors, glue, file, I want _____.
 (3) 展開

過程	○学習活動、内容、発問		・予想される児童の反応 「児童の言葉」	●指導上の留意点 ☆評価
	HRT	ALT		
導入 15分	1, はじめのあいさつ 3questions ○授業の進行をする ○授業進行の手助け 2, Chant 3 rules ○児童への指導 ○一緒に歌う 3, Jingle song ○児童への指導 ○一緒に歌う 4, Small Talk めあて確認 「どの文房具がほしいか伝えよう。」 ○HRT がめあてを板書する。		・リーダーが 3questions を言う。 ① How are you today? ② What day is it today? ③ How's the weather today?	●「How are you today?」の質問の後は、児童全体でリーダーに質問する。 ●HRTがSmall Talk後、児童の言葉を拾いながら、今日のめあてを確認する。
展開 25分	○どの文房具がほしいかを伝える言い方の練習をする。 ○文房具の言い方を練習する。 5, Practice 6, Activity① Crocodile Game ○DEMO を見せて、ルールを理解させる。 ○勝者にあげるスタンプを準備 7, Activity② Nakamasagashi game ○ゲームの説明を確認する。(何が分かっているか確認) ○ゲームの説明を行う。		- チャンツ音とともに、単語の反復練習をする。 - 手をたたきリズムを取りながら、文章の言い方を練習する。 児童 Keyword, please. HRT: Keyword is I want a pen. Here we go. I want a glue. I want a file. I want a pen!	●HRTが、ゲームのルールを児童としっかり確認する。 キーワードゲーム ペアで行い、1人は両手を縦に広げる。もう一人は片手を相手の手の中に入れる。文章を復唱していき、キーワードが言われたら手をとじる。
まとめ 5分	8, 振り返り・感想発表 ○振り返りを発表させる。→確認クイズ ○振り返りをした児童にスタンプをあげる 9, 終わりのあいさつ ○英語リーダーの手伝い ○英語リーダーの手伝い		児童1: Hello, I want _____. 児童2: Hello, I want _____. やりとり後に、1, 2, 3とってカードを見せ合う。カードが違う場合は、Bye~とって、また他の児童とやりとりする。カードがあった場合は、スタンプがもらえる♪ HRT: いい振り返りができましたね。では、glue の単語を使って、今日習った文章を言えますか? 児童: I want a glue! HRT: Good Job!!	仲間さがしゲーム 1人1枚文房具カードをもち、出会う児童と英語でやりとりする。同じカードをもつ児童を見つけたら、スタンプがもらえる。 ●振り返り発表後は、かならず習った英語の文章の確認をする。

5 各学年の活動の様子

【低学年】1年:英語の発音に出会う 2年:英語の発音に慣れる。

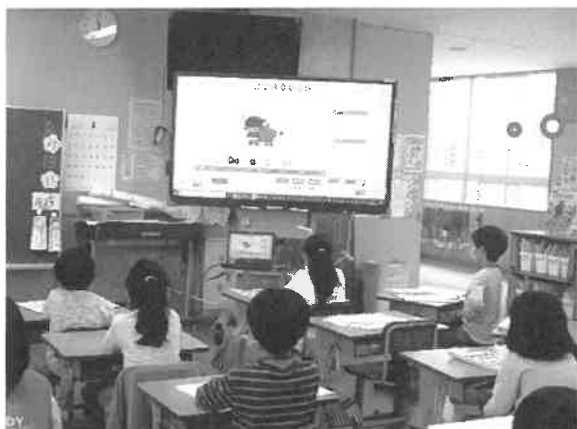
1年: Body Parts めあて:体の部分の言い方に慣れよう!



福笑いゲームを使いながら、体の部分の言い方を学びます♪ペアで交代に行い、ひよっとこの顔のパーツを目をつぶりながらおいていきます。パーツを渡す役は、UP, DOWN などとアドバイスしながら進めます♪

歌や踊りが大好きな1年生は、簡単なルールで、ゲームを楽しみながら英語に親しんでいます。

2年: Jingle, chants を使った単語学習、体を使って楽しく学習。



英語の音を聞いてすぐ真似できるのは低学年ならではの♪

Topic:家族

Goal: 家族を紹介しよう! ③/3

家族を紹介する言い方にも慣れてきたので、「フルーツバスケット」や「だるまさんが転んだ」のゲームを応用して、体を使って学ぶ♪

2年生になって初めて Jingle に挑戦。Alphabet 編も上手になったので、Animal 編へレベルアップ♪♪♪



単語の練習の時は、チャンツ音と共に楽しく体でリズムをとりながら練習♪



授業の最後、振り返り。何を学んだかを振り返りつつ、先生が簡単な質問をします。

【中学年】3年: 英語の発音・アルファベットの大文字に慣れ親しむ

国語の時間で習うローマ字と英語で使うアルファベットの文字は発音の仕方が違うことを学びます。ABCの歌を歌い、A-Zまで協力しながら並べたり、音をきいて単語を連想したりと英語の音と文字の楽しさに気づきます。



ABC songで順番を覚えている児童、見本をみながら進める児童、ともに協力しながらA-Zまで並べます♪



まず最初に3つの音を聞かせ、その音が表すアルファベットを見つけ、何の単語かを当てるゲーム。見つけた児童は誇らしげ！！



モニターに映し出された絵を見て、最初の文字が何かを想像します。



バイオリンだから、
BかなVかな。

4年: より文字に興味を持たせる

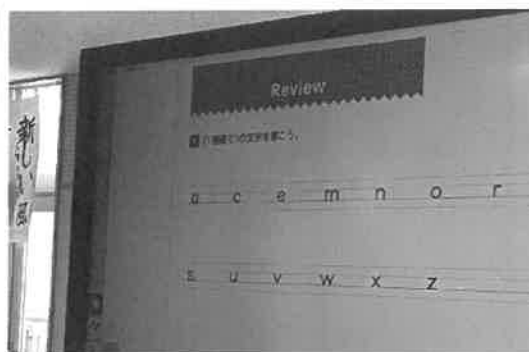
4年生のアルファベットの単元では、小文字の学習を中心に大文字も含めて、似たような形の大文字・小文字を識別できるようにゲームを通して学習しました。小文字の中でもbとd、pとq、nとuなど混同しやすいものは、文字が向く方向を丁寧に確認しつつ進めます。



これとこれだよね？ペアで相談しながら丁寧に置きます。

アルファベットマッチングゲーム
形の似ている小文字や、大文字と小文字で似ている文字など間違えやすい文字は、同じグループで声を掛け合い手直ししつつ、ゲームを進める児童。

【高学年】◎Sounds and lettersを通して、音の違いを認識し区別できるようにする。
 [5年生] “ONE WORLD Smiles”内にある、Sounds and Letters のコーナー活用



5年生の最初は、小文字の書き方から丁寧に始めます。その際、アルファベットの文字が持つ英語の音の指導も一緒に進めています。
 右の写真は、黙々と書き写す児童。

[6年生] “ONE WORLD Smiles”内にある、Sounds and Letters のコーナー活用の他、Phonics Game 等を行い、文字指導に関しては单元ごとにプレゼン用のライティングシートを下書き→清書へと丁寧に仕上げることを心がけさせた。プレゼンテーションでは相手を意識しゆっくりはっきりと英語を話すように指導し、聞き手の児童も話し手の言葉を繰り返したり、感想を述べたりと一方通行ではなく双方向のやりとりに少しずつ慣れてきた。



グループで、A, B, C, D, E の発音から始まる単語を見つけるマッチングゲーム。

リスニングとリーディングテストの他、ライティングのパートは、自分のライティングシートをみながら、丁寧に書き写します。

パフォーマンステストは、自分がプレゼンした内容を暗記して答えるだけでなく、習った構文を使って別の単語を入れて文章を作らせることもあります。

★振り返りシート★

[5 学年] 例えば7時間ある单元では、最初の 4 時間は单元のトピックのなぞり書きをし、その後の 2 時間は、自分でお手本をみながら書くようにしている。

[6 学年] 最初の第 1 单元だけは 5 年生と同じ様に行い、それ以降の单元では、ALT が毎時間書く内容を決め、黒板に書いた 1 文を児童が書き写すようにしている。

[6年] ビンゴゲーム、ライティング、発表、練習問題をタブレットで。

- ①普段の授業で活用。ビンゴゲームをタブレットを使用して行った。慣れるのに時間がかかる児童もいたが、徐々に準備に時間をかけずにゲームを行えるようになった。
- ②どの単元にもライティングがあり、自分事の内容を英語で書きあげるため、タブレットを使用し検索しながら下書きを完成させる。その後、ALTが英語の言い回しがあるか確認し、清書へと進む。間違いをそのままにせず、書き直しをしっかりとすることで書く力をつけている。
- ③いくつかの単元では、発表の際写真があると伝わりやすいので、各児童は自分の発表に関係のある写真を選びスライドショーを作り、上手に発表していた。
- ④今年は、英検 Jr の練習問題を、タブレットを使用して行った。予め練習問題をスキャンしメッセージに添付し児童へ配布。最初はやり方の分からない児童がいたが、3回目には全児童が揃って問題にさっと取り組むことができるようになった。

6 成果と課題・対応策 (○成果 △課題 ☆改善策)

低学年

- 英語の音の聞き取りが柔軟で得意なこの時期に、沢山の歌やジングルを聞いたり歌ったりしたことで、英語耳・英語を発音できる口回りの筋肉を鍛えることができたと思う。
- コロナ感染対策もやや緩和され、体を動かしながら学ぶアクティビティを取り入れることができ、楽しんで学ぶことができたと思う。

中学年

- 振り返りシートでのトピックのなぞり書きは、高学年でのライティング授業への抵抗感を減らすことになり成功している。また大文字小文字ゲームなどを通して文字の形や配列、発音の仕方などを通じて文字への関心が高まった。
- △フォニックスゲームは、文字やその文字の持つ音に関心をもってもらいたいと始めたが、クラス対抗にしたため盛り上がりすぎ、負けた時の残念な雰囲気が残ったり、単語を言うのに時間がかかった児童への態度がひどかったりとマイナス面がでてしまうクラスがあった。
- ☆フォニックスゲームを始める前に、フェアに挑戦すること、誰も責めないこと、などルールを明確にすれば気持ちよくゲームが行えると思う。

高学年

- sounds and letters において、音の識別に慣れ親しむことができた。5年生での文字慣れはクイズやライティングなどを通してかなり効果を上げ来年に上手くつなげられていると思う。
- 6年生は単元ごとにプレゼンを行うことで最初から見通しをもって授業に臨むことができた。ライティングに関してはタブレットを使用し検索しながら、自分の言いたいことを書き上げ、単元によってはスライドを作り画像をみせながらプレゼンをし、相手を意識した伝わりやすいプレゼンとなった。相手を意識したプレゼンは、児童自らによる思考を深める機会が増やす結果となった。
- 6年生は昨年に引き続き、教材に付随した単元テストを採用し、さらにライティングは少し難しく別途作成し、パフォーマンステストも追加して、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングと満遍なく力を伸ばせるように工夫した。パフォーマンステストでは、プレゼンで発表したことをただ暗記して答えるのではなく、別の単語を使って基本の文章を組み立てるというテストも単元により行った。
- 5年生は、昨年業者から購入したテストを採用したが、今年度は6年生と同じように教材に付随した単元テストを採用した。残りの時間は発音・文字の習得に使うことができた。

7 外部評価について（保護者）

12月に「子どもは英語の授業が楽しいと言っている。」という項目を設け、保護者アンケートを実施した。集計結果は以下の通りである。

- ①よくあてはまる。 (44%)
- ②よくあてはまる。 (40%)
- ③あまりあてはまらない (11%)
- ④あてはまらない (5%)

以上、アンケート結果を踏まえ、次年度は、90%の児童が、「英語の授業が楽しい」と言えるような授業実践に取り組んでいく。